

● 緑地を楽しむ本

『植物でシャボン玉ができた!』

月刊 たくさんのふしぎ 2018年10月号

高柳芳恵/文 水上みのり/絵

福音館書店



天気の良い日、公園でシャボン玉を吹いている子がいます。赤、緑、ピンク・・・色を変えながら大きなシャボン玉が、青空の向こうに飛んでいくのは、幻想的です。シャボン玉は普通、台所の洗剤を薄めて作ります。中性洗剤が出

てくる前は、どうしていたのでしょうか？ その答えが、この本にありました。

エゴノキ、ムクロジ、サイカチなどの実を水に入れて振ると、泡が立ちます。これはサポニンの作用で、昔から洗濯などに使われてきました。では他

のものでも泡が立つだろうか・・・そういえば、抹茶は泡が立つではありませんか、あれは葉っぱを粉にしたものです。葉にもサポニンが含まれるのなら、花はどうでしょう。というわけでツバキの花びらも実験してみると、泡立ちました！

さて、泡立つのなら、シャボン玉もできるのではないかと著者の実験は続きます。そして、昔はなかったプラスチックのストローではなく、ハス、クウシンサイ、ミツバなど穴のあいている茎探しへと、著者の好奇心はどんどん膨らんでいきました。

私も何でシャボン玉ができるか試してみたい！ 本を読み終わるとそう思うことでしょう。緑地にもエゴノキやチャやツバキなどが生えています、ぜひ実験してみてください。

(小川)